

化粧品受託製造産業欄

9月中間期売上高4%増に

ジャパンビューティ
ティ高木社長 UV、まつ毛美容液伸長



高木 正好社長

ジャパンビューティ
ティ高木社長

の高木正好社長は9月15日、本紙取材に応じ、同社の9月中間期における業績(見込)と今後の方針について大要次のように述べた。

一、当社の生協向け自社商品販売事業と化粧品OEM事業を合わせた9月中間期全体の売上高は、前年同期比約4%増の見込み。全体の営業利益は減少見込みだが、OEM事業単体では既存顧客からの依頼が堅調で、増益を見込んでいる。受注カテゴリーはかねてより好評のノンケミカルUVやまつ毛美容液のほか、へ

アケア製品の受注も多い。

一、福島工場では、8月より新たな充填設備が稼働し、一定の省人化と自動化を達成した。今年中にさらに新設備の稼働も予定しており、製造コストの削減を通じて、顧客に直接還元できる形での成果を目指していく。

一、原点回帰を掲げた営業活動の継続を強化したことで、新規案件の取引は増加傾向にある。メルマガ配信などマーケティングとの連携もより一層強化したことで、4-8月の新規問い合わせ件数は前年同期比1

80%以上に増加した。商談に発展するケースも今期6月時点で前年度全体の件数を上回るなど、確かな成果に結びついている。下期以降は、こうした案件をいかに形にできるかが重要課題となる。

一、全社を取り組んで、各部署を横断したグループ活動による研修や、処分開発のアイデアコンテスト、そして健康経営優良法人ならではのウォーキングイベントなどを実施している。また、生成AIについても外部のインストラクターを招いた研修を実施し、全社で活用を推進している。設備投資といったハード面だけでなく、こうしたソフト面の取り組みも促進させ、一定の成果へと結実させていきたい。